

文教常任委員会県内調査報告書

令和元年9月3日（火）に、「県立学校等に関する事項について」調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 梅 沢 裕 之 殿

文教常任委員会 委員長 市 川 よし子

文教常任委員会県内調査報告書

令和元年9月3日（火）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 上矢部高等学校、秦野養護学校
- (2) 出席委員 原副委員長
武田、山本、小川、鈴木、石川(裕)、池田の各委員
- (3) 調査日 令和元年9月3日(火)

2 上矢部高等学校

(1) 調査目的

上矢部高等学校では、これまで普通科専門コースとして取り組んできた教育活動を継承、発展させ、素描や陶芸など美術の専門的な内容を深く学べるように平成29年度から専門学科として美術科を設置している。

また、県立高校改革実施計画（Ⅱ期）において、インクルーシブ教育実践推進校に指定され、令和2年度から1期生を受け入れることとなっている。

そこで、上矢部高等学校の専門学科設置及びインクルーシブ教育の取り組みを調査することにより、今後の本県の県立高校改革の取り組みに関する委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

県教育委員会は県立高校改革実施計画（Ⅰ期）において、平成28年10月に上矢部高校普通科・専門学科併置校設置計画を策定しており、平成29年度に1期生が入学している。また、同計画に基づいて、専門学科、美術科としての教育課程を編成するとともに、専門教育に必要な施設、設備を整備している。

また、上矢部高等学校の特色ある教育活動としては、美術陶芸コースの専門科目でトイレアートを行っており、自分たちのデザインが実際の生活の場面で使われることで自己有用感を高めることや、仲間と協力して作り上げる体験の中で社会性を育むことなどを狙いとしている。

なお、県立高校改革実施計画（Ⅱ期）において、インクルーシブ教育実践推進校に指定されたことから、かながわ教育ビジョンの「共に育ち合う教育」の理念を実現するため、本年4月には、インクルーシブ教育実践推進校カリキュラム編成の方向性を定め、普通科に加え美術科を併設する特色を生かしつつ都市部に位置する地域的な特性も踏まえ、生徒及び職員が互いを尊重し、多様性から学び合い、それぞれの個性や適性に応じた進路実現ができる学校づくりを推進している。

(3) 主な質疑応答

質 疑 上矢部高等学校の芸術、美術の授業は障害のある生徒も共同作業をしやすいように感じたが、それらを生かしたインクルーシブ教育を行わないのか。

応 答 音楽、美術、書道等の科目を選択できる中で障害のある生徒は美術

のみとするわけにはいかないので、ほかの生徒と同様に選択できるようにしている。

質疑 平成7年に美術陶芸コースが新設された経緯について伺う。

応答 学校設立当初から地域と芸術を通じた交流を行っていた中で陶芸の取り組みが充実し、地域からのニーズもあったため、普通科の中に美術陶芸を中心とした専門コースを設置した。

質疑 現在、地域とはどのような交流を行っているのか。

応答 月に2回、地域の陶芸教室の方が本校の陶芸施設を利用している。また、陶芸部の生徒を中心として夏休みに戸塚区内の小中学校の生徒を招いて焼物教室を開催している。

質疑 生徒が作成した作品を販売しないのか。

応答 本校の文化祭で、陶芸部の作品を販売している。

質疑 秋に行う予定のインクルーシブ教育の説明会について、横浜市内の生徒のみを対象として行っている理由は。

応答 インクルーシブ教育では通学区域が決まっているため、上矢部高等学校の受験可能区域である横浜市内の生徒のみを対象としている

(※ 上記以外の質疑は、校内見学中に随時行われた。)



(4) 調査結果

上矢部高等学校では、普通科と専門学科である美術科の併置により、授業や課外活動などにおいて両学科の生徒が相互に交流できるよう工夫し、学校全体の活性化を図っていた。

また、インクルーシブ教育においては令和2年度からの受け入れに当たって、環境の整備や理解を深めるための取り組みを推進していた。

以上のように、上矢部高等学校の専門学科設置及びインクルーシブ教育の取り組みを調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

3 秦野養護学校

(1) 調査目的

秦野養護学校は、昭和33年に気管支ぜんそく、腎臓病、糖尿病、肥満、結核、自律神経失調症及びその他慢性疾患のある児童・生徒が、隣接する国立療養所神奈川病院（現独立行政法人国立病院機構神奈川病院）で療養生活を送りながら教育を受けられるよう病弱教育部門の学校として開校された。

また、平成31年4月には知的障害教育部門高等部を拡充するとともに、肢体不自由教育部門を開設し、病弱教育部門及び知的障害と合わせ、三つの教育部門を持つ「ともに歩む」総合的な特別支援学校を目指した学校づくりを推進している。

そこで、秦野養護学校における総合的な特別支援学校づくりへの取り組みを視察することにより、今後の本県における特別支援学校の取り組みに関する委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 地域との交流

秦野養護学校は、校内の病弱、知的障害、肢体不自由の教育部門間の交流を図るとともに、給食交流や演奏会などを通じて地域の小学校との交流も行っている。

また、同校を知ってもらうために学校施設開放を行うとともに、不審者対策として学校警備員の増員も行っている。

イ 遠隔教育の取り組み

遠隔教育の取り組みとして、病弱教育部門の中学部生徒に対して遠隔コミュニケーションロボット、OriHimeを活用した進路先学校見学会を企画し、教員が見学会にOriHimeを持参し、生徒が教室でOriHimeを操作することで、教室にいながら進路先学校の校内見学や説明会での質疑応答を行った。

ウ 関係機関との連携

社会福祉法人秦野市社会福祉協議会との連携により、通学見守りボランティアを配置し、秦野駅バス停で、知的部門高等部生徒の登下校を見守っている。

(3) 主な質疑応答

質 疑 秦野養護学校は、病弱、肢体、知的障害の3部門に分かれているが、最近の子供たちは重複障害が多く、この3部門ではなかなか分けづらいと思うが、具体例があれば教えてほしい。

応 答 重複障害の児童・生徒の教育について、特別支援学校に就学するに当たり、主障害が何かということ由市町村教育委員会が判断し、知的障害、肢体不自由及び聴覚障害など五つの障害種に決めて、特別支援学校に就学するのが現状である。

例えば、肢体不自由と知的障害のある子供、肢体不自由教育部門に在籍している児童・生徒は、全員、主障害が肢体不自由で、あわせて有する障害として知的障害のある児童・生徒になる。

その中で、ダウン症の子供で少し歩き始めが遅かった場合や小学部1年生の段階ではなかなか上手に歩けない場合は、まずは肢体不自由部門で受け入れつつ、将来の歩行のめど等を教員が見ながら、何年後かには知的障害教育部門に転籍するといった対応を行うことがある。

また、重複障害があるということで、肢体不自由教育部門だけの教育、知的障害部門だけの教育だけでは足りない子供もいるので、本校では、知的障害教育部門、病弱教育部門及び肢体不自由教育部門の三つの教育部門があることから、三つの教育部門が交流あるいは共同の授業をすることで、教育課程の工夫に取り組んでいる。

質 疑 人工呼吸器の生徒を受け入れるために整備を行うとのことだが、どのような整備を行うのか具体的に教えてほしい。

応 答 人工呼吸器のガイドラインに沿っての手續となるが、具体的な動きとしては、10月中旬をめどに医療的ケアを開始できる方向で準備を進めている。現在は、保護者が行うところを看護師が見て学ぶという段階。その次に、保護者が見ながら看護師が実施してみる段階で、最後に、保護者なしに学校でできる段階となる。それを10月中旬めどに行っていく。今後の方向性としては、今年度中は慎重に校内の部分について進めていくが、次年度は校外に向けて研修を進めながら、相談しながら行っていくことと考えている。

質 疑 不審者対策を行う中で学校開放を行っていくことは、相反することだと思うが、事故防止について何か考えがあるのか。

応 答 秦野警察生活安全課の方に来ていただいて、実地訓練を行っている。

質 疑 付き添いは保護者が行っているのか。

応 答 肢体不自由教育部門では7名が自家用車で送迎をしており、その中での付き添いは通学支援を利用しているケースもあるが、ほとんどの付き添いが保護者であるため課題として考えている。

質 疑 スクールバスの席に余裕はあるのか。

応 答 席に余裕はあるが、肢体不自由の方と知的障害の方が乗ることになった場合、安全性などの課題はある。

質 疑 知的障害の方に地域の環境を生かして、農業体験をしてもらう考えはないのか。

応 答 明日、地域の活用方法についての農業関係の方等と打合せを行う予定です。

(※ 上記以外の質疑は、校内見学中に随時行われた。)



(4) 調査結果

秦野養護学校では病院、施設、学校との協働や関係機関との連携、地域との共生により、落合校舎と3カ所の施設（神奈川リハビリテーション病院、鉄道弘済会弘済学園及び秦野市立末広小学校）に教育の場を設けるなど、子供の多様なニーズに対応するための多角的なアプローチを行っていた。

以上のように、秦野養護学校における総合的な特別支援学校づくりへの取り組みを調査することにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

<参 考>

1 随 行 者 星主事（議会局議事課）、若月副主幹（教育局総務室）

2 調査箇所側出席者

（1）上矢部高等学校

田中教育局長、岡野教育参事監、篠田教育局総務室長、古賀教育施設課長、平インクルーシブ教育推進課長、濱田高校教育課長、安藤校長、七海副校長、甲斐教頭

（2）秦野養護学校

田中教育局長、岡野教育参事監、篠田教育局総務室長、青木支援部長、柏木特別支援教育課長、佐藤校長、山崎副校長、齊藤総括教諭、磯崎総括教諭、米山総括教諭